市民の手による平和のためのシンクタンク

ピースデポ
平和資料協同組合
Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

会報
No.52
2023.8.1

発行人：湯浅一郎 / 住所：〒223-0062　横浜市港北区大豆戸町 1020-5 第４西山ビル 304
TEL：045-633-1796/FAX：045-633-1797/E-mail：office@peacedepot.org
郵便振替：00250-1-41182　特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座：横浜銀行日吉支店 普通 1561710　特定非営利活動法人ピースデポ

新代表は空席にし模索しながら、事業は運営委員会(仮称)で対応

2023年度上期再生委員会活動報告

再生委員会委員長
高木規行

前回の会報にて報告しましたように、再生委員会は事業計画に基づき、2024年2月からの新たな体制での再出発をめざし「次世代のピースデポのビジョン案」を作り、「新たな役員体制を2023年10月までに準備する」の2点をあげ検討を重ねてまいりました。その後の動きについて以下に報告します。

1. 新代表について

新代表については予想通り難航を極め、今を持っても目途すら立ちません。そこで代表は空席として引き続き模索を続けます。そうした中で最低限の運営を保障するために「(仮称)運営委員会」を作り、その委員長が対外的な代表代行を務めます。最低限の運営と言っても年間約1000万円程度の財政を保持しつつ、3本柱の事業(『脱軍備・平和レポート』の隔月刊行、脱軍備・平和基礎講座の運営、『ピースアルマナック』の質的維持と定期刊行)を遂行していくため、数名の役員が分担しながら運営していく人的体制を整えねばなりません。

再生委員会案として「高木を委員長」とし、数名の運営委員を選ぶ案を理事会に図りました。ただし高木は生業を持つ身であり代表代行として満足かと問われれば全くの不十分であり、一時しのぎという位置となります。下記の「2. 理事について」とも関わりますが、「(仮称)運営委員会」の委員に会員の皆さんから自薦他薦を問わず広く募集をお願いしたく考えています。

これらの改編と定款第10条２の規定「代表を1 ～ 2名。副代表を若干名おく」との整合性については、今後検討を進めます。

2. 理事について

現在の理事については、それまでの実績や協力団体からの理事相互による推薦等から理事就任をお願いし、正会員からの立候補を募る事はありませんでした。このため今回の次期代表候補や『脱軍備・平和レポート』の編集長などの選任に困難が伴う要因の一つになっています。そこで再生委員会としての新たな提案の一つは、「正会員に理事立候補を募る」というものです。正会員の中には研究成果を残している学識経験者が沢山、居られます。これらの方々に広くピースデポの事業継続への一助をお願いしていきたいと思います。

なお理事への立候補は定款第11条「役員は、総会において正会員のなかから選任する。代表、副代表、専務理事は理事の互選により選任する」に従い、正会員のみとさせていただきます。

3. ボランテイア運営スタッフの募集

ピースデポの運営を管理し、事務所を維持する為に運営者側メンバーが事務所に勤務する体制を作ることが重要ですが、現実には困難な状況となりつつあります。そこで会員の皆様に、事務所に週１日でも定期的に出勤できる方の募集を考えております。

4. 非常勤職員(研究員)の募集について

単なる事務所維持や編集補助だけでなく、ピースデポの事業である核兵器廃絶や基地問題に関心のある非常勤職員(研究員)も募集を継続します。特に3本柱の一つである『脱軍備・平和レポート』の編集長や編集委員についてもらえる人材を求めています。

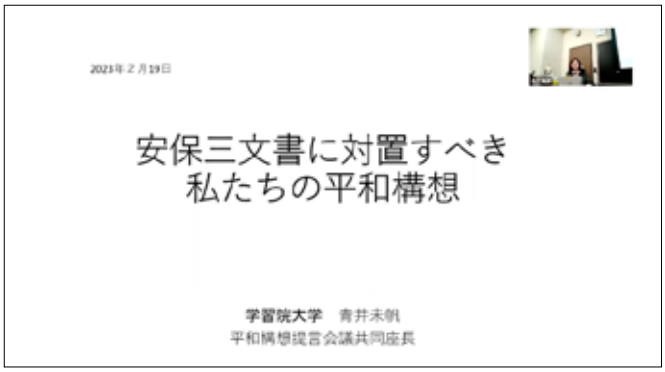
以上４項目を再生委員会としての2023年度上期活動報告とし、これを基礎に10月半ばまでに新たな運営体制案を理事会に提示する予定です。会員の皆さまにも是非ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

以　上

ピースデポ第 24 回総会記念講演会

安保３文書に対置すべき平和構想
青井未帆（学習院大学、憲法学）

2023 年 2 月 19 日、ピースデポは、「安保 3 文書に対置すべき私たちの平和構想」と題して明治学院大学白金校舎にて第 24 回総会記念講演会を開催した。講師は学習院大学教授で平和構想提言会議共同座長である青井美帆さんである。2022 年 12 月 16 日、政府が閣議決定した「安保 3 文書」は、自衛隊の敵基地攻撃能力保有を容認し、防衛費倍増を打ち出すなど専守防衛を基調とした従来の防衛政策を大転換させるものである。これに対置する形で、12 月 15 日、「平和構想提言会議」が提言を発表した。この共同座長を務めた青井氏から市民の平和構想について包括的に話していただいた。



2023 年の主な事業計画

2023 年度事業計画（案）

§1 事業分野

1『脱軍備・平和レポート』（DP レポート）の発行

2『ピース・アルマナック 2023』発行、2024 年版刊行継続及び 2025 年版以降の体制への準備

3 脱軍備・平和基礎講座の継続

4 その他の活動

・「核兵器廃絶日本ＮＧＯ連絡会」の活動への参加

・アボリッション 2000 への参加

・核の先行不使用を世界規模で呼びかけるグローバル NFU への参加

・核軍縮・不拡散議員連盟（ＰＮＮＤ）支援

・グローバル・アライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」（GASPPA)――広島県へいわ創造機構ひろしま（HOPe) が呼びかけたポスト SDG ｓに核廃絶を入れることをめざす国際市民社会グループ――への参加。

・北東アジア非核兵器地帯設立をめざす国際市民連合（C3+3）への支援。

・第 24 回総会記念講演会の開催

§ 2 事務所活動

1 ウェブサイトの整備と維持

2 ピースデポ「７本の柱」・次世代基金（梅林・湯浅基金）の運営

3 非核化合意監視プロジェクトの継続と『朝鮮半島情勢クロニクル - 北東アジアの非核化と平和をめざして』の作成

§ 3 組織体制

1 新型コロナウイルス感染拡大状況に対応した勤務体制

2 2024 年 2 月からの新体制での再出発をめざし、ピースデポ再生委員会の活動を活発化し、新規の役員体制を創りだす

3「組織強化イニシャチブ」の継続

4 会員、定期刊行物購読者の拡大

5 他機関との研究調査協力

6 持続可能な助成財源である「よこはま夢ファンド」への協力者の拡大

7 助成金・調査委託及び寄付金の継続

8 遺産の寄付に関する情報収集と相談を受ける体制の構築

欠席会員からの総会へのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から、激励・ご提案をいただきました。
この場を借りて御礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。

●「脱軍備・平和レポート」の発行に感謝です。毎回、中身の濃い内容と記事を読ませてもらっています。これからもピースデポの活動を応援したいと思っています。

●ウクライナ危機に乗じた「安保三文書」に目立った反対運動ができていないのが気になります。コロナ禍からの脱却とともに「相互不信」から「信頼」の運動を形成していく必要があると思います。

●維持・継続の困難が予測されますが、ピースデポは必要不可欠な存在だと思います。頑張ってください。お世話になります。

●インフレで市民の生活が困窮する中での軍事費倍増。こんな時代こそピースデポの役割は大きいと思います。マスメディアの報道が戦争を煽る方向になっているのも問題ですね。

●いつも貴重な情報をありがとうございます。引き続き発信を期待しています。

●総会の成功を確信しています。今後ともよろしくお願いします。

活動報告

「P3 ＋ 3」、ソウルで日韓議員交流会議 ―北東アジア非核兵器地帯構想をめざして―

5月12日、昨年8月に発足した「P3+3（北東アジア非核兵器地帯条約を推進する国際議員連盟）」の2回目の日韓議員交流会議が韓国国会敷地内の会議場で開催されました（下の写真参照）。ピースデポからは梅林特別顧問、高原副代表が参加しました。日本・韓国政府をして北東アジア非核兵器地帯構想を打ち出すよう働きかけることを意図して、日韓国会議員を中心にして核となるグループを形成する取り組みが進んでいます。3回目はワシントンでの開催をめざしているとのことです。（詳細は脱軍備・平和レポート第21号参照）。

PNND グローバル・コーディネーターのアラン・ウェア氏が来日 PNND 日本の国会議員および外務省を訪問

5月17日、ピースデポの梅林特別顧問および渡辺研究員（前者は「核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）」の東アジア・コーディネーター、後者は同日本コーディネーター）は、来日したPNND グローバル・コーディネーターのアラン・ウェア氏とともに衆議院第一議員会館を訪れ、PNND 日本事務局長の鈴木馨祐衆議院議員（自由民主党）および同副会長の近藤昭一衆議院議員（立憲民主党）と面会しました。面会では、ウェア氏からPNND の海外における活動が報告された他、同席したアーロン・トビッシュ氏から「核兵器の使用とその威嚇は許されない」という規範の国際法化を求める運動を始めたことについて、犬塚直史氏からソウルで「P3+3」の日韓議員交流会議が実施されたことついて報告がありました。それぞれの報告について、報告者と両議員との間で活発な意見交換がなされました。

続いて外務省を訪れ、伊藤茂樹軍縮不拡散・科学部審議官と面会しました（下の写真参照）。この面会には上記参加者に加えて、へいわ創造機構ひろしま（HOPe）プリンシパル・ディレクターの島田久仁彦氏が参加しました。面会では、まず、伊藤氏より核軍縮に向けた日本の取り組みについて報告がありました。つぎに、ウェア氏、トビッシュ氏、犬塚氏より上記面会と同趣旨の報告が、最後に島田氏から HOPe の取り組みについての説明がありました。その後、外務省と面会者との間での質疑応答となり、約1時間の会合は無事に終了しました。

メディアに登場したピースデポ

①トマホークに関する梅林特別顧問のコメントを掲載（東京新聞2022年12月2日）
②核兵器の共同運用に関する梅林特別顧問のコメントを掲載（東京新聞2022年12月27日）
③在日米軍基地の役割と軍事力による安全保障の危険性についての湯浅代表のコメントを掲載（東京新聞2023年1月18日）
④横浜ノースドックに関する梅林特別顧問のコメントを掲載（東京新聞2023年5月3日）
⑤「G7広島サミットを問う市民のつどい」で登壇した湯浅代表の報告を掲載（中国新聞2023年5月19日）

5月発売

「ピース・アルマナック2023」
―核兵器と戦争のない地球へ

監修:梅林宏道/編著:ピース・アルマナック刊行委員会
B5判　出版社:緑風出版

定価2700円
（税・送料別）

【ウクライナ戦争と私たち】
　年表／開戦直前の／開戦直前プーチン演説／ゼレンスキー日本国会演説／戦争犯罪の捜査開始／安保理拒否権と国連総会／ブダペスト覚書／ミンスク議定書／市民の声
【巻頭エッセイ】栗田禎子：ウクライナ戦争と市民の運動
【2023年解題】藤田明史／中村桂子／渡辺洋介／前川大／役重善洋／榎本珠良／河合公明／木元茂夫
【注目新資料】核禁条約のウィーン行動計画、第10回NPT会議最終文書の議長案、北朝鮮のミサイル発射全リストなど